

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	15-314	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Glucocorticoid receptor antagonism decreases alcohol seeking in alcohol-dependent individuals. 糖質コルチコイドレセプター拮抗作用はアルコール依存症患者のアルコールを求める行為を減少させる		
執筆者		
Vendruscolo LF, Estey D, Goodell V, Macshane LG, Logrip ML, Schlosburg JE, McGinn MA, Zamora-Martinez ER, Belanoff JK, Hunt HJ, Sanna PP, George O, Koob GF, Edwards S, Mason BJ.		
掲載誌		
J Clin Invest. 2015 Aug 3;125(8):3193-7. doi: 10.1172/JCI79828. Epub 2015 Jun 29.		
キーワード		PMID:
糖質コルチコイドレセプター、アルコール依存、		26121746
要 旨		
<p>アルコール症またはアルコール摂取障害は、かなり高い罹患率と障害率をもたらす危険因子であり、公衆衛生上の主要な関心事である。従って、有効な治療が緊急に必要とされている。我々は、糖質コルチコイドレセプター (GR) 拮抗薬であるミフェプリストーンがアルコールに依存的なラットではアルコール摂取を減らし、依存のないラットでは減らさないことを証明した。扁桃体の中心核 (重要なストレス関連脳領域) への全身的または直接の投与は、依存的なラットではアルコール消費を減らした。</p> <p>本研究では、臨床的および検査的二重盲検検査として、56 人のアルコール依存の人を対象にミフェプリストーンを使用した。</p> <p>ミフェプリストーン (経口的に 1 日 600mg を 1 週間) を投与された個人では、プラセボと関連して、アルコールにきっかけを与えられた熱望の減少を検査室で示した。そして、ミフェプリストーンで治療した個人では、1 週間の治療相と 1 週間の治療後相で、アルコール消費が減少した。ミフェプリストーンは忍容性が高く、肝機能検査の指標を改善した。</p> <p>これらの結果をまとめると、ミフェプリストーンなどの GR 拮抗作用薬のアルコール症のための治療として更なる研究をすすめること支持する。</p>		